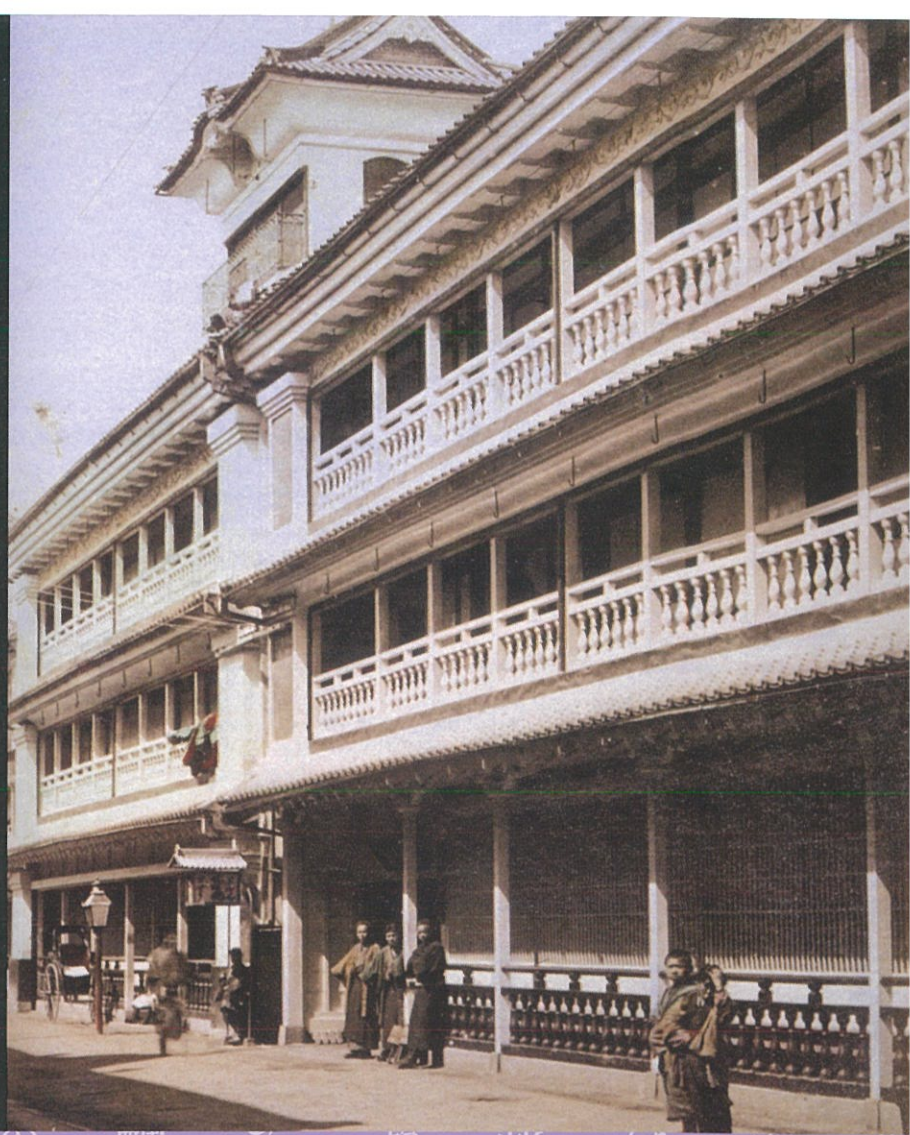


たけくらべ

舞台芸術研究センター主催 「語りの系譜 (1)」



足にはぬり木履ここらあたりにも多
黒襦子と染分絞りの昼夜帯胸だかに
色にあざ鳥を染めたる大形の裕衣きて
こなしの活々したるは快き物なり

樋口一葉作



企画・構成・演出：渡邊守章

出演：後藤加代

2009年6月13日 (土)

13時 / 17時開演

2009年6月14日 (日)

14時開演

※各回とも開場は開演の30分前

14日(日) 終演後、ポストトークあり

対談：「小説『たけくらべ』の文体、あるいは《言葉の姿》について」

出席者：松浦寿輝（東京大学大学院教授表象文化論専攻主任・詩人・芥川賞作家）

渡邊守章（京都造形芸術大学舞台芸術研究センター教授・演出家）

※トーク参加希望者の方は京都芸術劇場チケットセンターへ事前にお申し込みください。
『たけくらべ』公演お申込の方のみ参加可能です。

【会場】 京都芸術劇場 studio 21

（京都造形芸術大学内）

樋口一葉 作

近代小説の珠玉とも言うべき樋口一葉の『たけくらべ』。その紡ぎだす言葉の魅惑を、日本の芸能の伝統を貫く「語り」の視座から読み直す実験。

たけくらべ

企画・構成・演出：渡邊守章

出演：後藤加代

音響：竹内範之 スタッフ：京都造形芸術大学 舞台芸術学科生 制作：渡邊清子（空中庭園）

現代演劇において、身体表現や空間造形と並んで、根本的な変革を求められているものに、「言葉」の問題がある。西洋近代の台詞劇に対する根底的な批判の作業の地平で、日本の伝統演劇における「語り」としての「言葉」のありかたが、その身体的な力や音楽的強度によって、新しい演劇言語の可能性を拓くものとして、世界的に注目されている。過去四半世紀にわたる渡邊守章演出によって鍛えられた後藤加代の「語り」は、現在の日本で、最もインパクトのある成果として高い評価を受けている。過去二年間にすでに本学において、能ジャンクション『當麻——折口信夫「死者の書」による』と朗読オラトリオ『繻子の靴』(抄)で観客に深い感動を与えた後藤加代によって、日本語の音声的・身体的・演劇的可能性を探るために、「語り」シリーズの第一回を企画する。

なおこの企画と並んで、渡邊守章演出作品の映像記録を見てシンポジウムを行うシリーズが予定されており、後藤加代主演で、パリ公演を二度行ったラシーヌ『悲劇フェードル』の映写会を、公演に先立って行う。



渡邊守章 (わたなべ もりあき)

1933年生まれ。東京大学教授、放送大学副学長、パリ第三大学客員教授等を経て東京大学名誉教授、京都造形芸術大学教授、舞台芸術研究センター所長代行。専攻は仏文学・表象文化論。演出家。演劇企画「空中庭園」主宰。著書に『ポール・クローデル——劇的想像力の世界』、『虚構の身体』、『哲学の舞台』(M・フォーコーとの共著)、『舞台芸術の現在』、等。訳書にラシーヌ『フェードル』、『アンドロマック』、『プリタニキウス』、『ペレニス』、『フォーコーの歴史』——知への意志、クローデル『繻子の靴』(上・下、毎日出版文化賞、日本翻訳文化賞、小西財団日仏翻訳文学賞受賞)、パレト『ラシーヌ論』(読売文学賞受賞)等。演出作品に、ラシーヌ『悲劇フェードル』(芸術祭優秀作品賞)、クローデル『真昼に分かつ』、ミュッセ『ロレンザッチョ』、ジュネ『女中たち』(読売演劇賞)、泉鏡花『天守物語』等。能・狂言等の日本の伝統演劇にも詳しく、能ジャンクション『葵上』『當麻』を、またクローデルの詩による創作能『内濠十二景、あるいは《二重の影》』『薔薇の名——長谷寺の牡丹』を作・演出。



後藤加代 (ごとう かよ)

演劇集団円における渡邊演出の実験的ラシーヌ悲劇で、その存在感と強度のある声と台詞によって、悲劇女優としての類稀な才能を認められる。ラシーヌ『バジャゼ』の後妃ロクサーヌ、『アンドロマック』のアンドロマック、『女王ペレニス』のペレニス(芸術祭優秀賞)、『悲劇フェードル』では、有史以来初めて、パリにおいて日本人による日本語のラシーヌ悲劇として高く評価され、1999年には、パリでリニューアル・ヴァージョンに出演。パレコ能ジャンクション2『當麻』で観世榮夫・野村武司(現萬斎)と共演。泉鏡花『天守物語』の富姫(後に『空中庭園』製作でパリ公演も)、シェークスピア『ハムレット』(野村武司主演)のガートルードなど。円を退団後は、『キャバレ』等のミュージカル、平幹二郎のシェークスピア連続上演に参加。2005年には、クローデル没後五十周年記念・渡邊演出「朗読オラトリオ『繻子の靴』」(全曲版)で、その健在振りをアピールした。

【日時】2009年6月13日(土) 13時 / 17時開演

6月14日(日) 14時開演 ※各回とも開場は開演の30分前

【会場】京都芸術劇場 studio 21 (京都造形芸術大学内)

14日(日) 終演後、ポストトークあり

対談：「小説『たけくらべ』の文体、あるいは『言葉の姿』について」

出席者：松浦寿輝(東京大学大学院教授表象文化論専攻主任・詩人・芥川賞作家)

渡邊守章(京都造形芸術大学舞台芸術研究センター教授・演出家)

◎松浦寿輝(まつうら ひさき)

1954年生まれ。東京大学教養学部・大学院教授。表象文化論、フランス文学専攻。詩人、映画批評家、小説家。主な著書に『口唇論——記号と官能のトポス』、『折口信夫論』(三島由紀夫賞)、小説に『花腐し』(芥川賞)、『半島』(読売文学賞)、『川之光』、散文詩集『吃水都市』、訳書にアルト・デリダ『デッサンと肖像』ほか多数。



※トーク参加希望者の方は京都芸術劇場チケットセンターへ事前にお申し込みください。

『たけくらべ』公演お申込の方のみ参加可能です。

◎料金：【全席自由席】

一般 2,000円(当日 2,500円) / 学生 1,000円(当日 1,500円)

京都芸術劇場 友の会 1,800円(当日 2,300円)

◎チケット発売日：2009年4月8日(水)

◎チケット取り扱い：

京都芸術劇場チケットセンター 075-791-8240 (平日10:00-17:00)

劇場オンラインチケットストア ※要会員登録(無料)

http://www.k-pac.org/theatre/ (PC) http://www.k-pac.org/theatre/m/m (携帯)

◎協力：空中庭園



◎お問合せ：京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

電話：075-791-9437 ファクシミリ：075-791-9438 E-mail: info@k-pac.org

【関連企画】公開講座 映像+トーク 2009-2010 「渡邊守章の仕事 テキストと身体——その演出作品を通して」

4月21日(火) ジュネ作『女中たち』ゲスト：浅田彰

5月19日(火) ジュネ作『バルコン』ゲスト：浅田彰

6月9日(火) ラシーヌ作『悲劇フェードル』ゲスト：後藤加代

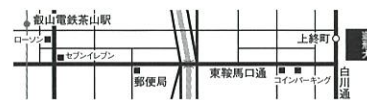
7月7日(火) ミュッセ作『ロレンザッチョ』ゲスト：服部基(照明家)

◎会場：京都造形芸術大学 映像ホール(入場無料 要事前申込)

◎お申込：京都芸術劇場 チケットセンター



※叡山電鉄茶山駅から



【会場アクセス】

◎JR・近鉄「京都」駅、京阪「三条」駅、阪急「河原町」駅から
→京都市バス5番「岩倉」行き乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車
(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)

◎京都市営地下鉄「丸太町」「北大路」駅から

→京都市バス204循環に乗車、

「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)

◎京阪電鉄「出町柳」駅から

→叡山電鉄に乗換え、「茶山」駅下車徒歩10分

※駐車場はございませんので、お車・バイクのご来場はご遠慮ください。